序

～第3版の発行に寄せて～

本書の初版が2014年11月に発行されて以来，実に12年が経過した．この間，2020年1月に改訂（第2版）が行われている．幸いなことに発刊以来，多くの読者に受け入れられ，多数の理学療法士・作業療法士養成施設のテキストとして採用されていることは，編者として望外の喜びである．

今回の改訂では，編者に髙見彰淑先生に加わっていただき，内容の刷新を図ることとした．まず，かねてより読者からご要望の多かった「中枢神経疾患の評価」と「整形外科疾患の検査」の章を新たに設け，「内臓関連の評価」の章とともに，それぞれ代表的な疾患の評価について解説を加えている．特に理学療法士，作業療法士ともに経験する頻度の高い「脳卒中の評価」については，その背景となる知識について詳述している．また，整形外科疾患患者に対して行われる各種の疾患特異的な検査法（「冠名検査」）について取り上げている．

今回の改訂のもう一つの特筆すべき点として，各種の主要な検査については，読者が実際の検査場面を「動画」で確認できるように配慮したことである．検査の手順・ポイントが視覚的にわかるだけでなく，「検査を進める際に，対象者にどのように説明し，必要な協力を得るのか」ということを読者が一人でも容易に理解できるよう心がけた．執筆者の諸先生方のご尽力により，本書の特長の一つでもある豊富な図表のうえに，さらに動画が加わることになり，より一層，理解しやすいテキストになったものと考えている．

今後も読者の皆様からのご要望にお応えしながら，改訂を進めていく所存であり，引き続き，ご意見やご指摘を賜ることができれば幸いである．

2026年9月

潮見泰藏
下田信明
髙見彰淑

第1版の序

理学療法士，作業療法士をはじめとする医療専門職では，対象者が抱える障害像を把握し，具体的な介入を決定するために評価が行われる．評価は，対象者の観察に始まり，種々の検査・測定に基づいて行われるが，これは医師が診察や検査の結果に基づいて診断を行うのと同様である．したがって，正しい治療が行われるためには，正しい評価が行われなくてはならない．そして適切な理学療法や作業療法が提供されるためには，正確な評価方法に関する知識と技術を身につける必要がある．

周知のとおり，理学療法士と作業療法士とは，制度上は姉妹のような関係にあり，法制度が整備され，教育が開始されたのも同時であった．事実，リハビリテーションに関わる専門職として，両職種には知識や技術について共通する部分も多い．筆者らは，以前から理学療法士と作業療法士が行う評価はかなりの部分が共通しており，それぞれの専門職に固有の評価項目は必ずしも多くないことに気づいていた．独立した専門職である以上，同一の患者を評価する場合，評価の視点や重みづけは異なり，それぞれの専門職に独自の評価方法が存在することも理解している．その一方で，共通した評価方法に基づいて行われる評価指標も少なくないのである．

本書のコンセプトは，理学療法士と作業療法士に共通する基礎的な評価方法に関する解説書を作成することにあった．ただし，それぞれの職種には固有の専門的知識を必要とすることもまた事実であることから，必ずしも共通しない項目も掲載してある．したがって，本書は理学療法士およびその学生，もしくは作業療法士およびその学生が本書を手にしても十分な内容を網羅したつもりである．また，今後は理学療法士，作業療法士がお互いに固有の分野についても理解することが必要となると考えられることから，本書を通じて自分たちに不足した評価の内容について，相互に補完することが可能となろう．

最後に，本書は理学療法士と作業療法士の合作による評価学のテキストであり，本邦では初の試みであると思う．今後，適宜，改訂の作業を行い，より充実した内容に改訂していく所存である．読者の忌憚のないご意見やご指摘を賜ることができれば幸いである．

2014年9月

潮見泰藏
下田信明